

大雨による災害(水害、土砂災害)対応



大雨が予想される場合

- 台風の接近や梅雨前線の停滞による大雨が予想される場合、気象台からの気象情報や村からの警戒情報に注意する。

気象警報等が発令された場合



- 大雨による災害の恐れがある場合に大雨警報が発令されます。状況によっては、村から避難準備情報も発表されますので、土砂災害警戒区域や浸水想定区域内の住民は、早めの避難を検討する必要があります。
- 大雨警報が発表され、さらに土砂災害発生の危険がある場合に土砂災害警戒情報が発表されます。村からは特定の区域に避難勧告等が発令される場合がありますので、避難対象区域や土砂災害警戒区域の住民は、より安全な場所への避難が必要となります。

避難行動



- 河川の氾濫や浸水が想定される場合は、高台等の安全な場所に避難する。
- 避難場所へ移動できない場合は、近所の鉄筋コンクリート製の頑丈な建物に避難する。



- 避難の際は、非常持出品はリュックに入れ、ヘルメット等を着用し、動きやすい服装、長靴ではなく、履きなれた靴をはく。



- 浸水している場合は、棒などを使って地面を探りながら避難。
- 大雨で増水しているときは、河川や用水路を避け、安全な避難経路をとる。



- 50cm以上の水深(大人のひざ丈)で浸水が発生している場合は、無理に避難しない。



- 山等の斜面で、災害の前兆現象(斜面にひび割れが生じる。小石が落ちてくる。土のおいがする。斜面から水が湧き出る。湧水が濁る。地鳴りが聞こえる。)がみられたら、速やかに安全な避難場所に避難する。
- 土砂災害警戒区域に居住しており、避難勧告等が発令された時点で、既に大雨で避難ができない場合は、屋内でも上階の谷側に退避する。